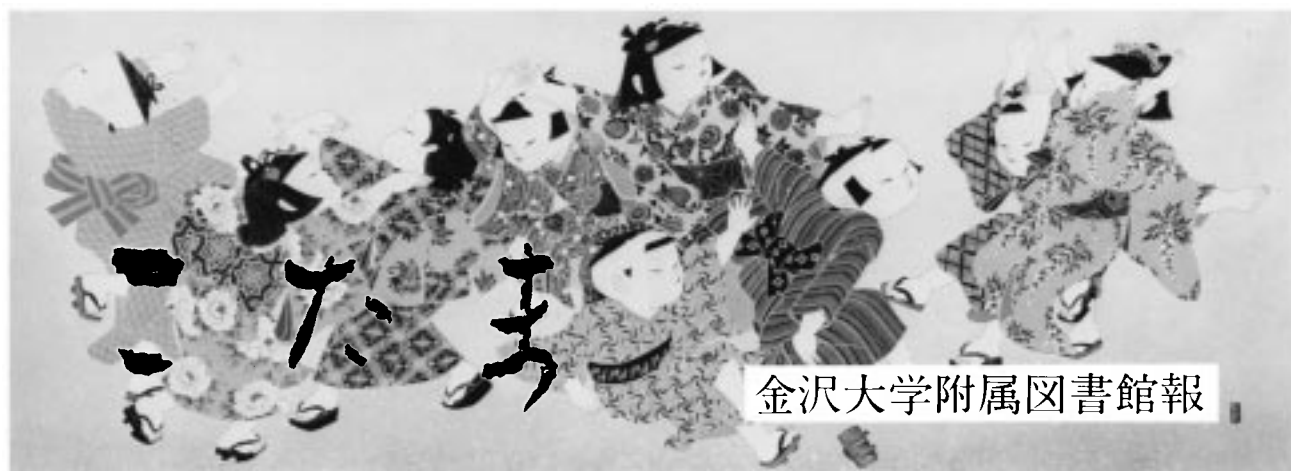




目 次

Chemical Abstracts 9-13th CI および CI on CD を提供開始	2
第49回暁烏記念式記念講演	
藤原正洋氏『先達・暁烏敏と祖父・藤原鉄乗』要旨.....	3
図書館の広報活動に関するアンケート調査 集計結果の報告.....	4
金沢大学附属図書館シンポジウム	
『大学図書館活動に係る自己点検評価』要旨.....	6
総合科目『大学図書館と図書資料に親しむ』の開講.....	7
中央館サービスの改善・変更のお知らせ.....	8
としょかん日誌（1998年3月～5月）.....	8



好評だった総合科目の一こま（図書館オリエンテーション。7頁参照）

自然科学系図書購入費による購入資料

Chemical Abstracts 9-13th CI および CI on CD を提供開始

12CI と 13CI はネットワーク経由で24時間利用可能



附属図書館では平成9年度に、Chemical Abstracts 9 - 13th Collective indexes (ケミカル・アブストラクト第9 - 13期累積索引)を購入しました。

Chemical Abstracts は世界最大の化学文献抄録誌で、本学では第1巻(1907年)から所蔵していますが、各巻の索引を検索するには多くの時間と労力を要し、これまで累積索引は第5 - 8期を所蔵するのみであったため、総合的な遡及検索を効率的に行うため標記の累積索引の購入が待たれていました。

今回購入した第9期(1972 - 1976)から第13期(1992 - 1996)は、Chemical Abstracts 本誌の第76巻から第125巻をカバーするものです。また、第12期及び第13期については、冊子体に加え CD-ROM (CI on CD) 版を併せて購入しました。なお、冊子体資料は薬学部図書室に排架していますが、CD-ROM 版は中央館のサーバからネットワークをとおして24時間提供しています。CD-ROM 版の利用法については以下を参照ください。

.....

CI on CD の利用法 (Windows95用)

lmhosts ファイルの設定

メモ帳などのエディタで、¥ windows ディレクトリ (Windows NT 4.0 では ¥ winnt ¥ system32 ¥ drivers ¥ etc ディレクトリ) に "lmhosts" (エルエムホストス) という名前のファイルを作成し次の一行を記述します。

(ip アドレス (注1)) lib_caserver #PRE

* Windows95による CD-ROM サーバ利用のための設定については、

Windows95ネットワーク設定マニュアル

[http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/](http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/manual/cdsvmn95.htm)

[manual/cdsvmn95.htm](http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/manual/cdsvmn95.htm)

も参照ください。

* この時ファイル名に .txt 等の拡張子を付けないように注意してください。

なお、Windows では拡張子が付いていても拡張子が表示されない設定になっている場合がある

のでご注意ください。

* この設定が正しく行われていない場合、図書館サーバと異なるセグメントからは接続できません。

CD-ROM サーバの検索

1. Windows95を再起動し、

ドメイン名: library

ユーザー名: cduser

パスワード: (パスワード (注2))

と入力してドメイン (ネットワーク) にログオンします。

2. 「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」で "lib_caserver" を検索します。

* この時 "パスワードを確認するためのドメインが利用できません。....." 等のメッセージが出てサーバは利用できません。

3. "lib_caserver" をダブルクリックしフォルダを開きます。

CD-ROM ドライブの割当て

サーバのボリューム一覧から、

13CI (第13期): ca13_1 ca13_2 ca13_3 ca13_4

12CI (第12期): ca12_1 ca12_2 ca12_3

ボリュームをクリック (ダブルクリックしない) し、表示色を反転させ、「ファイル」メニューからネットワークドライブの割り当てを選択し、ドライブ名を指定します。デフォルトでは空いているドライブ名を順次表示します。

* データが分割されていますので、13CI では4ボリューム、12CI では3ボリュームすべてを割り当てる必要があります。

* 「ログオン時に再接続」をチェックすると次回起動したときに自動的にドライブに割り当てます。

検索ソフトのセットアップ

"ca13_1" フォルダにある netuser.exe を実行します。

注1 2) ip アドレスとパスワードは上記の設定マニュアルホームページをご覧になるか、システム管理係 (076-264-5213) へお問い合わせください。

(システム管理係)

第49回金沢大学暁烏記念式記念講演

先達・暁烏敏と祖父・藤原鉄乗

藤 原 正 洋

本学創設直後の昭和25年4月に暁烏敏師から寄贈された5万余冊の書籍は、附属図書館の暁烏文庫として、当時から現在にいたるまで学生・教職員の勉学・研究上の貴重な資料として大いに役立っています。今年の暁烏記念式は4月28日午後、附属図書館で挙行され、式後、標記の演題で能美郡川北町・浄秀寺の藤原正洋（まさうみ）住職が記念講演を行い、市民を含む50余名の出席者に感銘を与えました。以下はその要旨です。



暁烏敏（あけがらす・はや）師と藤原鉄乗師は、高光大船師と共に、加賀の三羽烏または、北陸の三羽烏と称され、今なお、その呼称を記憶している人も少なくない。

敏師は、明治10年（1877）7月12日生まれ、大船師は明治12年、鉄乗師は13年生まれである。

松任市北安田町、明達寺の境内の南側に、夢殿を模したお堂・臘扇堂（ろうせんどう）があり、この堂に向かって歌碑が建っている。

「十億の人に十億の母あらんもわが母にまさる母ありなんや」と刻まれている。

また、その歌碑の傍らにある鐘楼堂の梵鐘には、「生と死のうねりをなして常住（とことわ）のいのちの水の流れゆくなり」という歌が陰刻されている。

この二首の歌は、敏師の世界を極めて象徴的に物語っているものと思われる。

一方、川北町一ツ屋・浄秀寺の境内には鉄乗師の歌碑が建っている。

「光追う人に光はなかりけり光なき人光を仰ぐ」と刻まれている。

梵鐘には、

「生あり死あり生なし死なしたにい往かん一すじの道」（いは強意の助詞）という歌が陽刻されている。

金沢市北間町、専称寺の境内には、大船師の句碑があり、

「葬式も通れ菜の花蝶も舞え」と刻まれている。

三羽烏三様に、「生死一如」、「生死解脱（しょうじげだつ）」の風光を表現しているように思われる。それぞれの歌や句に、三者共通の師・清沢満之先生の宗教的信念の影響を感じ取ることができるのである。

さて、敏師と鉄乗師が出会った明達寺の第1回講習会について、松田章一氏は著書『暁烏敏 世と共に世を超えん』で、次のように記している。

—後の藤原（旧姓・牛腸＝ごちょう）鉄乗も、この時はじめて明達寺を訪れている。

—牛腸鉄乗は、新潟県三条市の農家の六男坊、10歳で曹洞宗の福昌寺に入寺、早稲田大学の印度哲学科を卒業した。同じ三条の福田見昌によって清沢満之を知る。42、3年と三条を訪れた敏師に出会って、浄土真宗の信仰に心開けた。

また、大船師と鉄乗師の出会いも、その明達寺の第1回講習会の折りであった。かくして三師の交流は、各師主催の講習会や同人誌等で進展して行った。

私の手許に、『北國新聞』（夕刊・昭和60年8月20日付）の記事の切抜きがある。それは、暁烏師に師事した橋本芳契氏の追憶記で、その中に金沢大学へ5万余の巨冊の愛蔵書を寄贈されるに当たって、暁烏敏師が詠まれた歌が記されている。

—「よみたしと集めしふみをのちにくる人のにこして安く世をさる」と。

（川北町・浄秀寺住職）

図書館の広報活動に関するアンケート調査 集計結果の報告

金沢大学附属図書館広報委員会

e-mail, ホームページといった新しいメディアがキャンパスに普及しつつある現在, どういう広報活動が効果的なのかを探るために「図書館の広報活動に関するアンケート調査」を今年の1月に行いました。その集計結果の概要を報告します。この結果を基に, より役立つ広報や新しい図書館サービスを目指してゆく所存です。アンケート調査にご協力いただいた皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

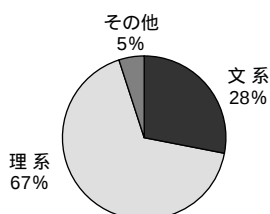
●調査の概要

学内の教官に配布した「こだま」128号に調査票を同封し, 回答を学内便で回収した。1162枚配布し75枚回答(回収率6.5%)があった。

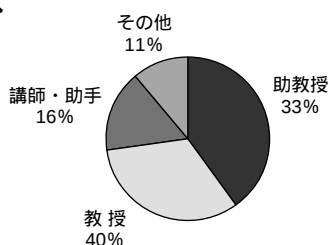
●集計結果

集計に際しては, 調査票の質問項目を一部まとめた。

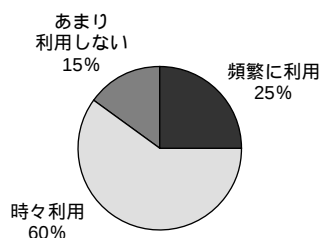
1. 専門分野



2. 身分

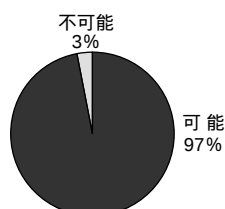


3. 図書館利用頻度



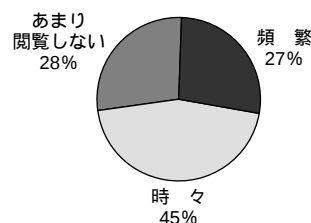
4. 研究室からのホームページの閲覧

* ホームページの閲覧は学内にほぼ浸透したといえる。

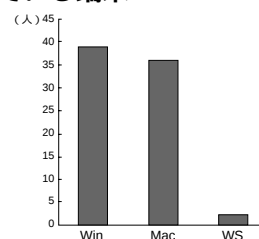


5. ホームページの閲覧頻度

* 普及率の割に閲覧率はまだそれほど高くない。

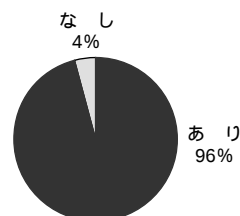


6. 閲覧に利用している端末



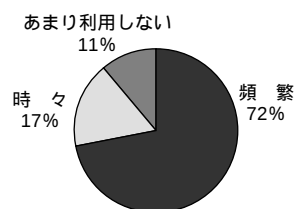
7. e-mail のアドレスの有無

* 回答したほぼすべての教員がアドレスを持っている。

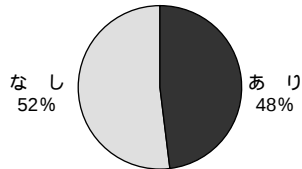


8. e-mail の利用頻度

* ホームページの閲覧に比べて活発に利用されている。

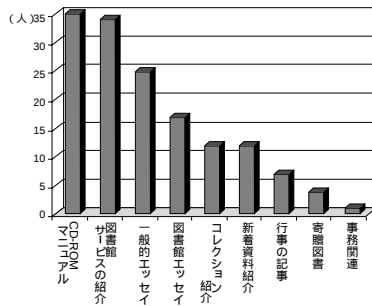


9. 附属図書館ホームページの閲覧の有無



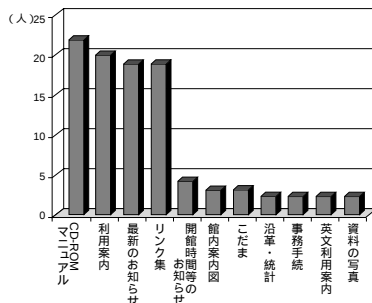
アンケートの回答率等を考え合わせると実際はもっと低い値だろう。図書館ホームページは浸透しているとはいえない。

10. こだまの中で関心のある記事（複数回答）



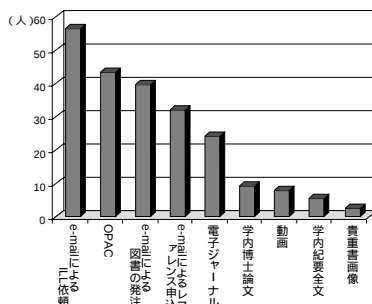
CD-ROM の使い方、図書館サービスの紹介といった記事に関心のある人が半数近くだった。現在館報のメインになっているエッセイについては、図書館関連のものよりも一般的な内容のものが好まれている。行事の紹介、事務情報といった内容についての関心は薄い。

11. 附属図書館ホームページで関心のある内容（複数回答）



閲覧したことのある人自体が回答者数の半数のため回答率は低い。ここでも CD-ROM の使い方、利用案内といった情報に対する関心が高い。

12. これからあるとよいホームページを使った図書館サービス（複数回答）



e-mail を使ったサービス、研究室からの目録検索、電子ジャーナルといった「居ながらにして図書館を利用する」といった希望が多い。つまり、電子図書館的機能の窓口としてのホームページが期待されているようである。

■ その他のコメント

- 学内 LAN が完備し、キャンパスのインターネット・インフラは整ったといえそうである。
- e-mail は学術研究のためには無くてはならないツールになっている。クロス集計結果は載せなかったが、理系の方が e-mail を頻繁に利用している。
- 利用端末は Windows と Mac がほぼ同数になった。現在、中央館の CD-ROM は Windows からしか利用できないが、この状況が続くとすれば、今後、Mac からの利用を検討する必要があるだろう。
- CD-ROM、オンライン・ジャーナルといったネットワークを介して利用してする「図書館資料」が浸透しつつある現在、館報、ホームページを問わず、こういったツールについての情報が求められている。
- 新しい情報サービスとしては、e-mail を利用したサービス、研究室に居ながら資料や目録を利用するという電子図書館的機能に対する希望が多い。

第3回金沢大学附属図書館シンポジウム

大学図書館活動に係る自己点検評価

附属図書館では平成7年度から図書館に係るシンポジウムを毎年開催してまいりました。今年は「大学図書館活動に係る自己点検評価」というテーマで、平成10年3月10日（火）、第3回シンポジウムを開催いたしました。岡田金沢大学長のあいさつに引き続き、慶応義塾大学の渋川雅俊教授とお茶の水女子大学附属図書館長の大口勇次郎教授の講演がありました。当日は、図書館経営に関心のある図書館委員会の委員をはじめ、多くの関係教職員の参加があり、活発な意見交換がなされました。講演要旨は次のとおりです。

[講演 1] 大学図書館、世紀末の課題 慶応義塾大学教授 渋川雅俊

点検評価のそもそもの起こりは大学設置基準の改正から始まる。大学設置基準の最初の条項に自己点検のねらいがハッキリ書かれている。大学で「より良い教育研究」を進めるのための、点検であり評価である。それではより良い教育研究とは具体的にどういうことが問題になる。大学は、人間が将来立ち向かわなければならない、あるいは遭遇するかも知れない大きな課題をその場になったら解決できる能力を身につけるために作られた、教育研究という制度を行う機関である。大学図書館という大学の一部局といえども、その活動を点検評価することは人類の将来につながる問題である。自己点検評価をするのであれば、まず最初にこのことを少なくともわれわれの心の内に秘めておく必要があることを確認しておきたい。

次に図書館活動の何を点検評価するのか、これも共通の理解を持っておいた方がいい。蔵書、施設・設備、様々なサービスのメニュー、そして図書館員という図書館の要件が考えられる。

次にもう一つ点検評価について考えておくべきことがある。点検評価で仕事は完結しない。4月から翌年3月まで仕事をして決算でふりかえる。

その結果にもとづいて翌々年の事業計画に反映する。PLAN=DO=SEEのSEEの部分が点検評価に当たる。その意味で、新しい事業計画につなげるためのデータ・情報を採集する非常に大事なステップである。そこでもう一つ、改善、変革、革命といった三つのレベルのスタンスのいずれを個々の大学図書館で自己点検評価の次のアクションに採用するかが問われる。ここまでが自己点検評価に関する概論である。

自己点検評価というのは個々の大学の問題である。しかし、大学図書館人は何をどう評価するかは共通の基準で行けるだろうと考えて行動を起こした。何故個々の問題だけれども共通に枠組みを決めようと思ったのか。いま大学図書館は、資源共有というキャッチフレーズを理念とした協力体制を強力にしいて日々の仕事をしている。もはや個々独立にサービスができない体制になっている。したがって、共通のフレームを持つ必要がある。金沢大学のコレクションも慶応大学のコレクションも離れているが実は一つなんだ。これが資源共有の考え方である。

私立大学図書館改善要項制定の基本方針は二つある。一つは、新設置基準の大綱化への対応、いま一つは大綱化した点検評価のガイドラインを時代の変化にあわせて新しくできるように、点検評価ガイドライン作成委員会を作り、標準的な考え方を示す。点検評価のガイドラインの中間報告では、点検評価すべき項目・ポイントとして大きく、「サービス」、「情報資源」、「施設・設備」、「職員」、「大学における図書館の位置づけ」と五つの項目を掲げている。大学設置基準の中で大学図書館に関する基準の38条を見ると旧基準と違うところが三つある。「情報の処理・学術情報の提供」、「他の大学との協力」そして「専門的職員の配置」である。

個々の大学は、新「改善要項」を待っている。それはそれとして、点検すべき項目をいくらあげても評価する基準が定まらなければ次につながらない。具体的にこういう方向に大学図書館を向けるべきだといったものを持つ必要がある。ではどの方向に向いたらよいのか。二つ大事なことがある。一つは「図書館利用教育」、要するに図書館の中から調べたいものを自分で検索して入手でき

る身体知をそれぞれが身につけることを図書館がサポートする。もう一つは「電子図書館」、ネットワーク上に存在するデジタル化された知識情報コンテンツを、あたかもこれまでわれわれが本から求めていたような形で適確に、迅速にそして安く、実際に探せる技術の向上をサポートする仕事が必要になってくる。



**[講演 2] 図書館の自己点検：
お茶の水女子大学の経験
お茶の水女子大学附属図書館長 大口勇次郎**

お茶の水女子大学の経験を話すに当たって、数量的比較をしたところ、お茶大は金沢大学の二分の一から三分の一の規模になる。事務機構では事務長制と部課長制の違いがある。また、お茶大では図書館長が全学の予算委員長を兼ねる仕組みになっている。おそらくこの学部にも利害が関わらないようにということだと思う。

自己点検報告書（平成7年1月刊）は「新しい

女子大学像を求めて」という大層な表題で作られたが、自己点検にもとづいた改革を目指すという点では、あまり役に立たない。数年前に自己点検を各大学でやり始めた頃は、なるべくいいことを書こうという気持ちがあった。私は大学の中からの図書館に対する要望等々に対処するため、図書館運営委員会の中に小委員会を設けて、半年ぐらいかけて、「図書館の将来構想について」という報告書をいただいた。

そこで述べている基本的な考え方は、主要な研究書は各研究室、学部・学科の図書室にあり、附属図書館には共通のもの、あるいは一般教養的な本を集めているのが現状である。それに対して最近の研究状況は大きく変わったということが指摘された。教養課程の消滅により教養教育用の本を集めるという図書館本来の意味が極めて薄くなった。各学部とも大講座制に変わっている。大学院への重心移動があり、学際的な研究が進み、大学共通の図書室がほしいという要望は非常に強い。図書館の収蔵能力も一杯になってきている。学術情報の電子化、マルチメディア情報の急速な変化に対応する必要もある。よその大学だとメール一本でコピーが来るのに、同じ大学の図書室や学科へ行ってもどこにあるかわからないとか、個々の事情があって、それに対して図書館はほとんど無力である。そこを何とかしなくてはいけないという報告書をいただいて、どうするかというのはこれからの課題だと考えている。

（まとめ：広報委員会）

**総合科目
「大学図書館と図書資料に親しむ」が
開講しました（→表紙写真）**

この科目は、学生の自主学習を支援するために今年度はじめて開講されたもの（前期、2単位）で、71名の受講登録がありました。授業のうち何回かは図書館職員が担当して金沢大学の図書館を紹介したり、現在の学術情報を取り巻く状況を解説する事になりました。

図書館職員担当の授業では、大学図書館がどのように利用されているか、また、コンピュータや

通信手段の発達により情報革命ともいえる時期にあること、その反面、今まで長い時間をかけて蓄積されてきた歴史的な面があることなど、研究活動や図書館を取り巻く環境を理解していただきたいと考えています。

これまで、図書館が授業に直接参加することがありませんでしたので、この経験を今後の図書館活動に生かしオリエンテーションなどを充実していく予定です。

図書館が、さらに広い世界に目を向け参加・活動する場に、あるいは、その準備をする場になればと願っています。
（参考調査係）

●今年(1998)度各学部の Syllabus (シラバス) が揃いました。

CD-ROM コーナー前にありますのでご利用ください。なお、理学部は WWW ホームページでのみ提供されます。

(<http://sab.ad.kanazawa-u.ac.jp/syllabus/>)

●インターネットコーナーのパソコンを3台に増設。

4月から Windows95 パソコン3台を稼働させています。どなたでも自由に利用できます。

●留学生用ワープロコーナーを3階へ移設。

2台の Windows95 パソコンに、Chinese Writer, Korean Writer, 中国語・ハングルフォントなどをセットアップしてあります。

●新着図書コーナーを移設・改装。

専用書架をカウンター前の目立つところへ設置しました。参考図書やビデオ類も随時並べます。お楽しみに。

●新聞(原紙)コーナーを移設・整備。

前月と前々月分(外国新聞は6カ月分)を1階書庫入口に配置しました。また、中央館で所蔵している新聞バックナンバーを図表にして掲示しました。

●カウンター周辺を整備中。

利用者サービスを向上させるため、カウンターを整備していきます。整備中はご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、よろしくご了解ください。(閲覧係)

利用しやすくなりました



中央館サービスの改善・変更のお知らせ

としょかん日誌(1998年3月～5月)

3月25日 春季休業に伴う時間外開館休止
～4月10日

3月10日 金沢大学附属図書館シンポジウム「大学図書館活動に係る自己点検評価」講演：渋川雅俊(慶応義塾大学教授) 大口勇次郎(お茶の水女子大学附属図書館長) 由良信道(情報管理課長)

4月23日～24日 第49回北信越地区国立大学図書館協議会(福井厚生年金会館) 橋本哲哉(図書館長), 青山弘(事務部長), 金井晃(情報管理課長), 米澤章雄(情報サ・ビス課長) 出席

4月28日 第49回暁鳥記念式

5月15日 さわやか行政サ・ビス推進協議会(広坂合同庁舎) 梶井重明(情報サ・ビス課図書館専門員) 出席

5月21日～22日 第69回日本医学図書館協会総会(自治医科大学) 杉本美子(医学部図書係長) 出席

5月26日 平成10年度国立大学附属図書館事務部課長会議(東京医科歯科大学) 青山弘(事務部長), 金井晃(情報管理課長), 米澤章雄(情報サ・ビス課長) 出席

5月29日 日本薬学図書館協議会定期総会(学士会館分館) 上島のり子(薬学部図書室) 出席

金沢大学附属図書館報「こだま」第130号

発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会

〒920-1192 金沢市角間町 電話 076 264 - 5200 番

ホームページアドレス <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/index.html>

1998年7月1日発行

印刷：活文堂印刷株式会社

表題地模様 6 Toku Yusui